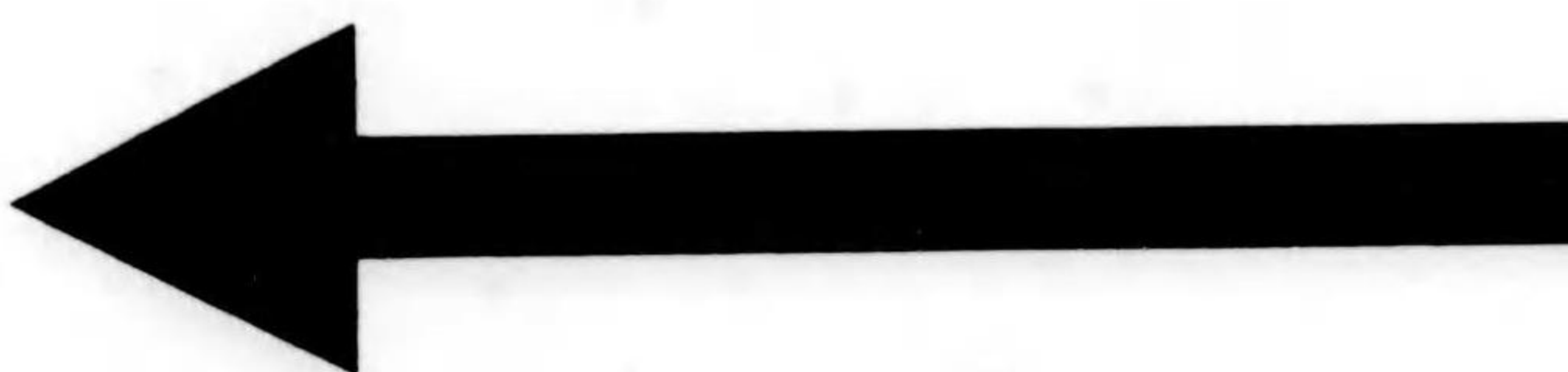


始



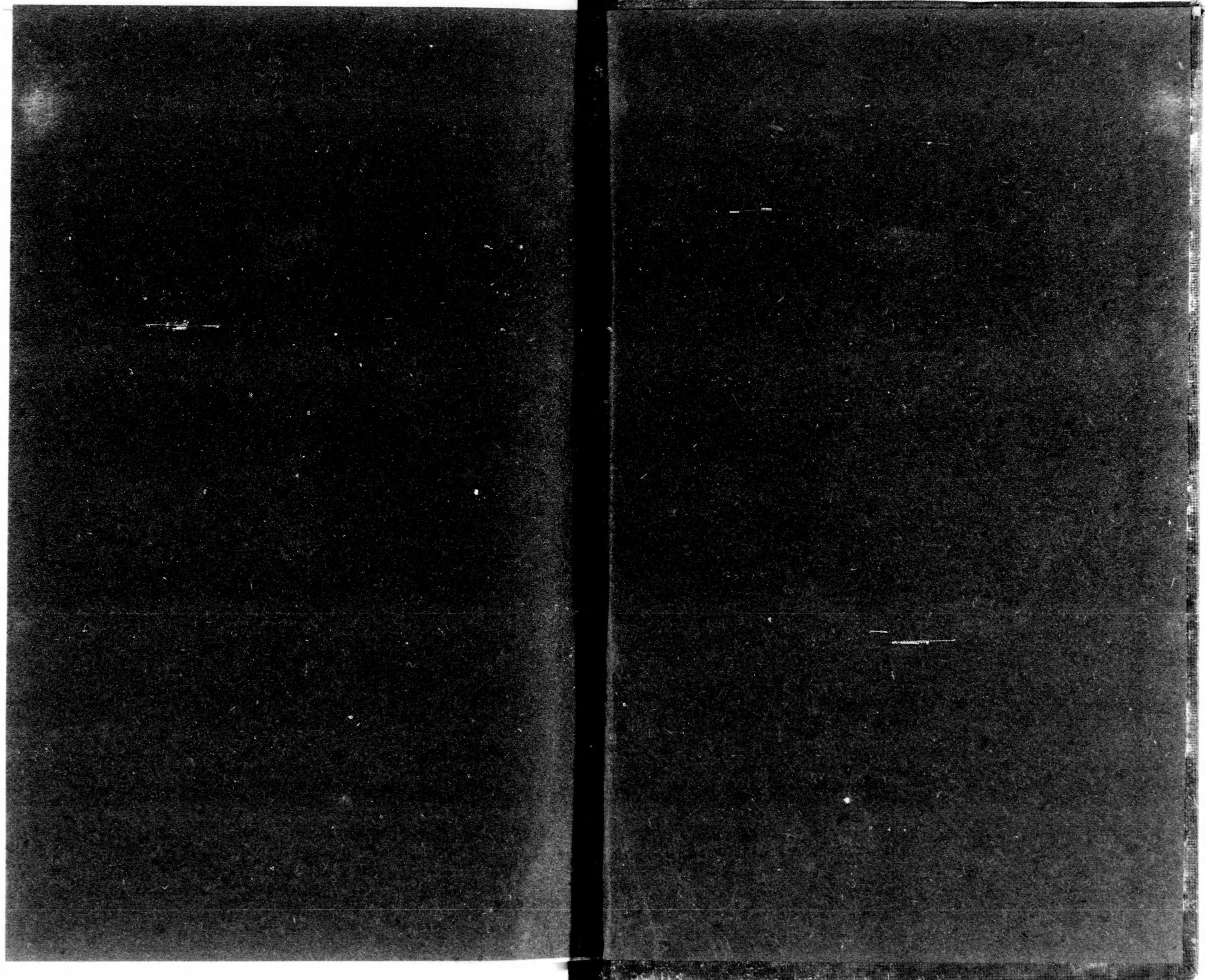
特



水滸傳
武備麻解



特



特100
549

東京心理協會會長權大教正清水芳洲著



清水しみず式しき催眠さいみん術じゆつ速はや解わか

全



東京

東京心理協會本部

著 者



東京心協理會長
權大教正清水芳洲

東京心理學部長清水若翁
 贈
 日本歌道奨励會宮城支部
 副會長 倉若翁

本會特別會員大日本歌道奨励會宮城支部
 副會長 倉若翁 贈 玉詠

(圖 二 第)



シセ視疑ニ者術被ヲト指食ト挂母ノ右ノ者術
 ニ方上ト々徐テ以ヲ度角ノ位度五十四、ツメ
 處ルストンセ行逆ニ前眼ノ者術被ビ再ケザ遠

(圖 一 第)



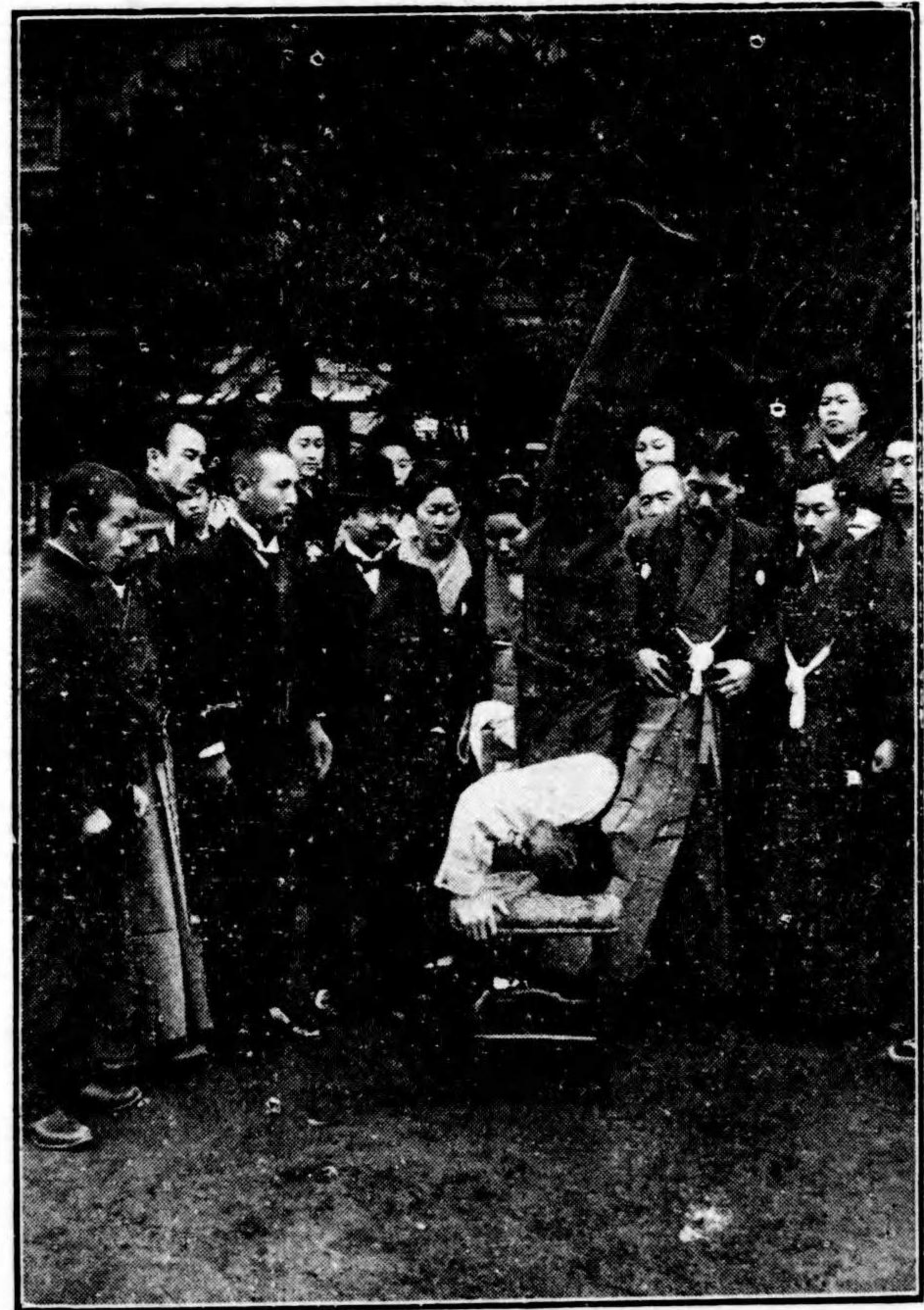
眠催間瞬式水清が氏洲芳水清長會協理心京東
 處ルストンサ施ヲ

(圖 四 第)



洲尹部阿長部支谷下會協理心京東が長會水清
ス刺ヲ針ニ腕ノ氏

(圖 三 第)



院醫科內田山町尻江縣岡靜ルナ員會別特會本
驗實ノ態狀直強ガ氏榮昌田山長院分尻江



東京心理協會本部ニ於ケル催眠ノ實驗向ツテ右端ニ起ラルハ清水會長中央ノ術者ハ特別會員菊池溪洲氏

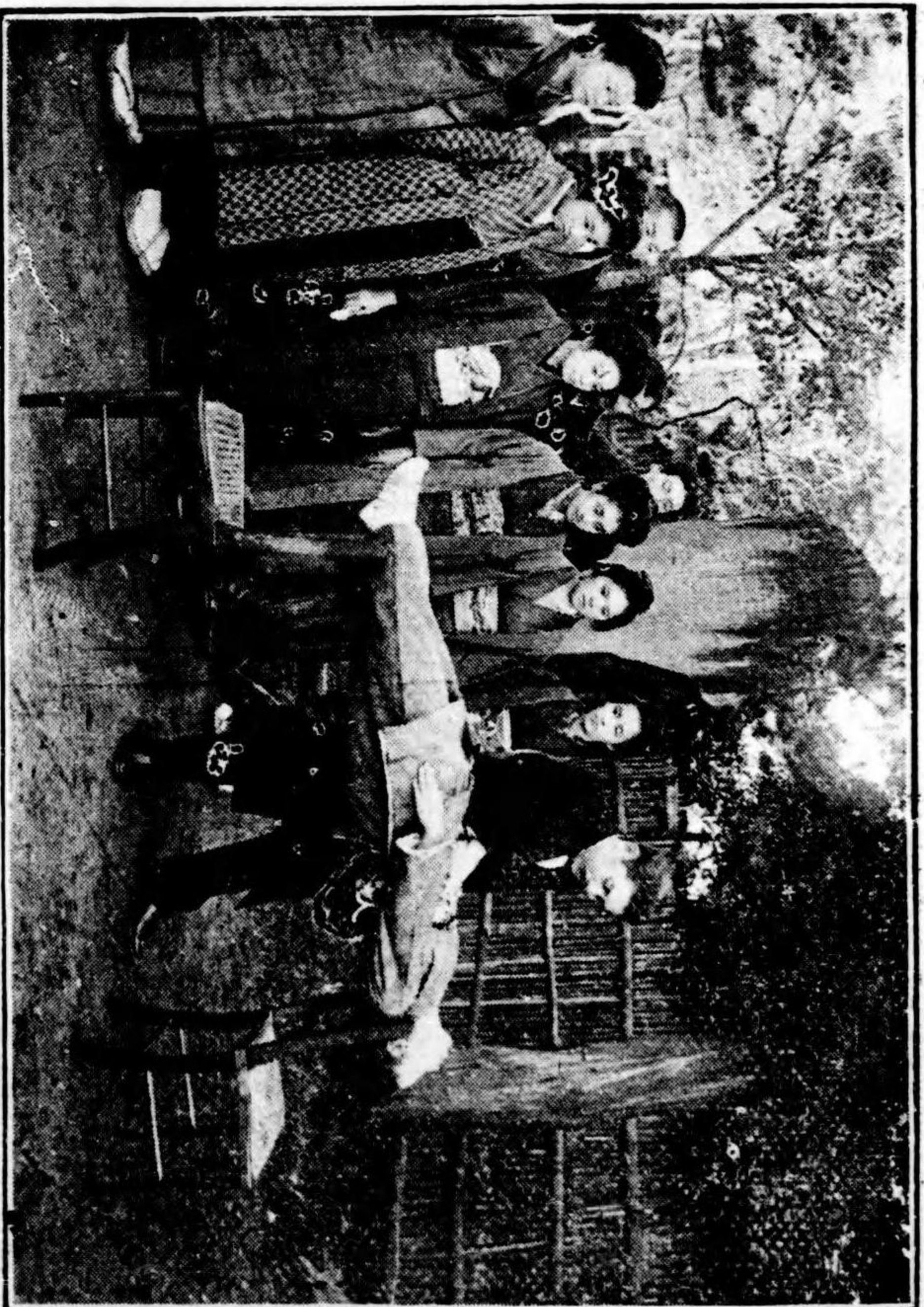
(第五圖)



本會長清水芳洲氏が一喝ヲ以テ七名ノ婦人ヲ同時ニ催眠セシム

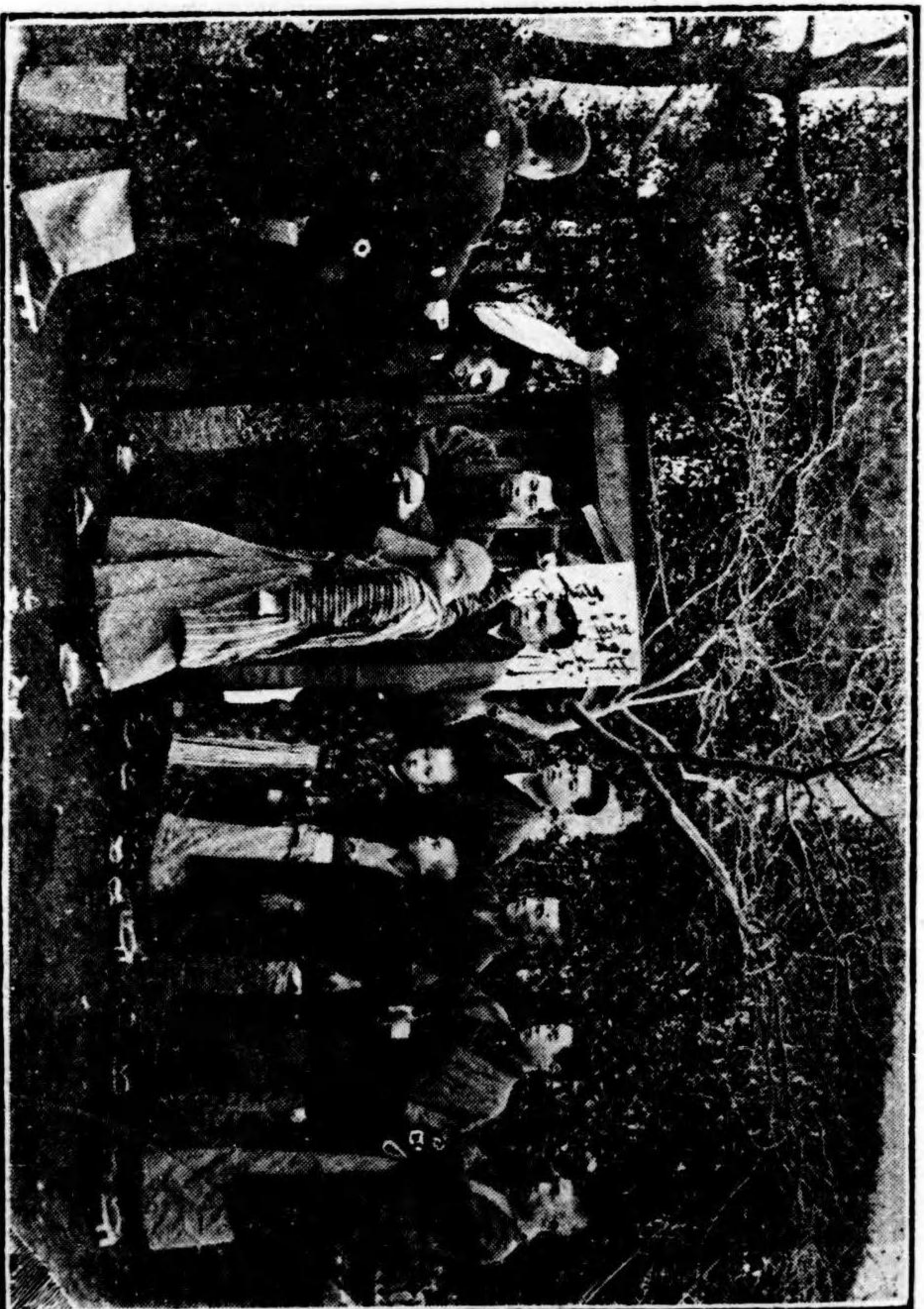
(第六圖)

(第七圖)



清水會長が特別會員ナル宮崎房子ニ瞬間催眠ヲ施シテ強直狀態トナシ頭ト踵ヲ椅子ニ支ヘテ恰モ人ノ橋ヲ作リタル也

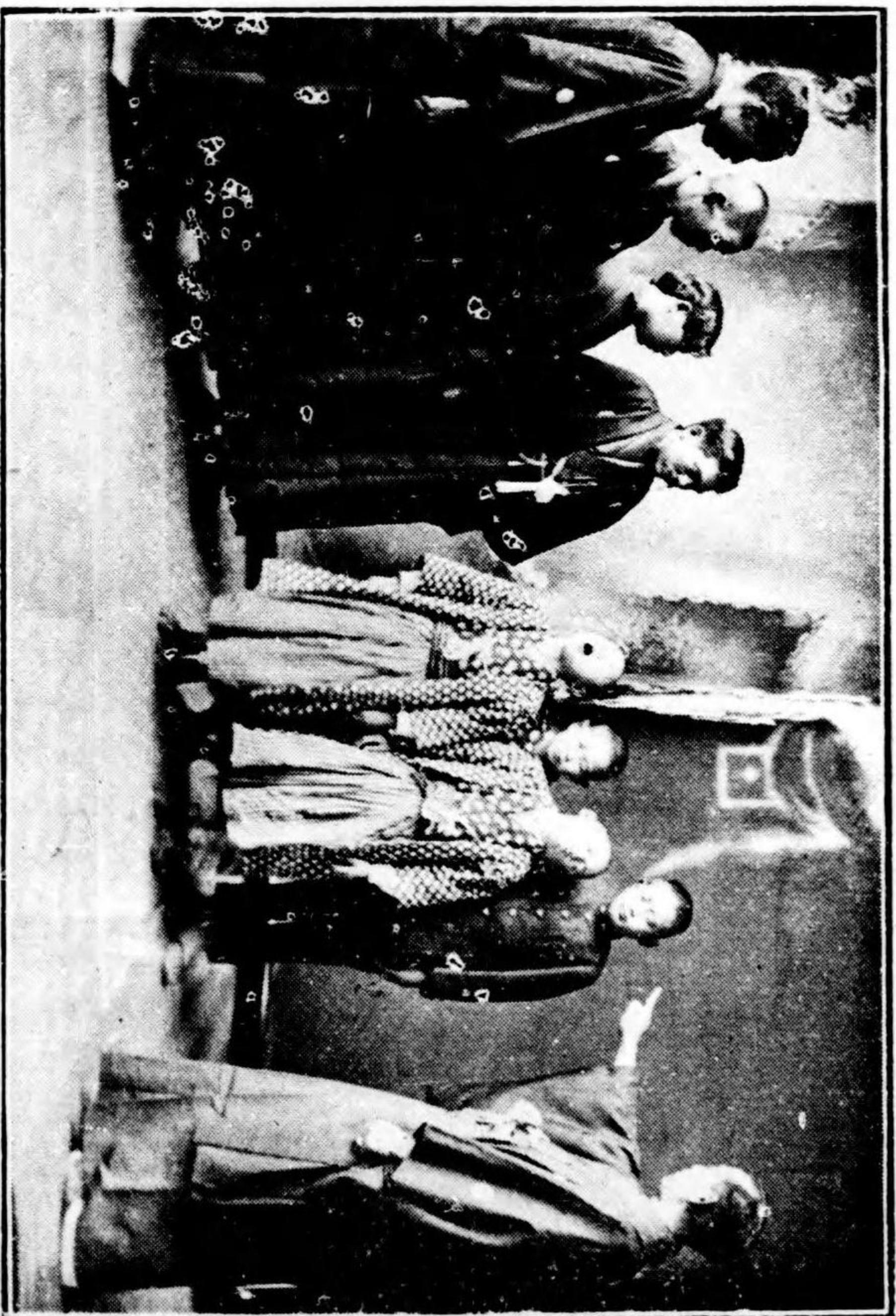
(第八圖)



二人ノ催眠者

清水式瞬間催眠ヲ施サレ身體ノ自由ヲ失ヒタル

(第九圖)



東京心理協會本郷支部長加藤光洲氏が一喝ヲ以テ
四人ノ兒童ヲ催眠セシム

！見逸がす可からざる自序？

？先づ必ず自序を精讀せよ！

自序

世に催眠術者多く、亦た斯道に關する刊行物も尠なくない、然るに其多くは、術と法とを混同し又は轉倒して之れを用ひ、恬として省みる者の無いのは、予の常に窃かに怪とし復た深く慨する所である。法とは不易の習を指すもので、無量無際限であらねばならぬ、術は機に臨み變に應じ、其の時の宜しきに従ふものである、喩へば前者は數學上に於ける定理の如く、後者は公式の如きものである、法ありて術出で術現はれて應用の生ずるのは、猶ほ定理に基きて公式表はれ、公式あり

て運算生るゝが如きものと比考すれば解し易い、催眠術も亦た斯の理に漏れず、法より出で、術となり、而して之れを實際に施す應用が出来るのである、法は學ぶに難く究むるに遠い、術は習ふに易く行ふに至難ではない、極めて卑近なる引例を爲せば、古來劍術の達者は尠なくないけれども、劍法の名人の甚だ稀なるが如きものである、現時の所謂催眠術なるものも亦た然りで、催眠法の奥義原理に至つては、到底世上凡百の術者と稱する士、術書と題する刊行物に依つて、需め得べき所ではない、纔かに催眠術に於て之れを求めて得られるのである、乍併茲に最も注意を要する事は、法に新舊優劣なきも術に嶄新陳套熟練拙劣の存する事を

知らねばならぬ、或は凝視、壓迫、摩擦、氣合等百流千派の江湖に繁煩するも茲に原由するものである。然るに斯理を辨へず、或は催眠法と唱へ或は催眠術と稱し、是れを教授講習するに何等の區別を附せず、一概に催眠術と唱へて順序なく系統なきが故に、之れを修得せんとする者は或は徒らに、學理の幽玄深遠なるに難解を嘆じ、或は解説の餘りに簡單空疎なるに呆然たる者が尠なくない、是れ畢竟教授指導の任に當る筆舌者の、態度の不鮮明より來たる當然の缺陷である、法と術とを兼修するは理想であるけれども、若し能はずとすれば、法を究めんか、術を修めんか、兩者の中其の一者を求むべきである。

催眠法を究めんとする者は、飽くまで學究的態度を持して、總てを心理學的に研鑽討議せねばならぬ、催眠術を學んで之れを實際問題に應用せんとする者は、最も正確明瞭なる手段方法を會得する事に努めなければならぬ、然るに世上多くの斯道に志す者は、十中の八九後者に屬するものたるは認定に難くはない、予は多年斯界に活動せる經驗上より、明かに此の趨向を認め得たると同時に、斯くの如き求術者の爲めに、好指導者たり良師たる可き刊行物の未だ世に現はれざるを遺憾として居た、今回漸く小閑を得たので、蒼卒稿を起して之れを上梓し、弘く世に公にするに至つたのである、本書は實に如上の見界に成つたものであるが

故に、幽玄なる學說、深遠なる理論は敢て之を避け、全然活用の施術方法のみを詳述した、苟も催眠術を知らんとする者は、本書を精讀すれば實際の應用極めて易々たる可さを確信する。例へば佛法大乘の玄義を知らずとも、六字の唱名七字の題目をだに唱へなば、功德は無量無邊なる可しと説破せる大聖哲人の信念の如き根底ある確信である。讀者にも亦た此の信念が無ければならぬ。然らば音波の如何なるものなるかを解する理學的智識に乏しくとも、能く蓄音器の發する音律に娛しむを得るが如く催眠術の偉効妙績に自ら驚嘆するを得る事を更に保證する。幸に本書の精神と、本書を刊行したる著者の態度とを諒解せられん事を請ふ

て置く。

大正七年一月

著 者 識

國家醫學會大會に於ける

法學博士 古賀廉造氏講演の一節

……論者、又曰く催眠術は之を濫用して數々人を害することあり、睡眠中に乗じて或は婦女を姦淫することあり、或は盜賊を爲すことあり、或は他人の秘密を發くとあり、宜しく法を設けて以て之を禁止すべしと。然れども一利一害は數の免れざる所なれば、醫業と雖も亦必ずしも弊害なしと謂ふ可からず。或は患者を誤診することあり、或は手術を誤ることあり、或は劇藥を過用することあり、其他枚舉に遑あらざるべし。若し催眠術の弊害を見て其施術を禁止せんと欲せば醫業も亦之を禁止すべしと云ふに至る……

清水式催眠術速解全

目次

- 求術者に對する注意……………一
- 催眠術に罹らぬ人ありや……………四
- 催眠術とは其麼なものか……………七
- 催眠状態と睡眠状態との區別……………一〇
- 催眠術を施す順序……………三
- 暗示とは如何なるものか……………一五

- 暗示は斯くの如く與へよ……(其五例)……………二六
- 催眠術の生命たる豫期作用……………二二
- 斯様いふ方法で施術せよ……………二四
- 一般的施術の解説……………二九
- ▲一例▼多人數を同時に催眠せしむる時
- ▲二例▼反抗者に施す場合
- ▲三例▼強制催眠の方法
- ▲四例▼自己催眠法
- 術者の心得べき條々……………三六

- ▲其の一▼術者の自信
- ▲其の二▼催眠状態の檢案法
- ▲其の三▼正確なる覺醒暗示
- ▲其の四▼自然覺醒
- ▲其の五▼殘續暗示
- 催眠術の應用類例……………四六
- (イ) 疾病治療惡癖矯正
- (ロ) 教育上の應用
- (ハ) 健康増進心身休養

- (ニ) 宗教上に應用の話
- (ホ) 投機上の應用
- (ヘ) 司法警察上の活用
- (ト) 其他數例

■卷尾に附言して……………五三

清水式催眠術速解目次終

清水式催眠術速解 全

東京心理協會長 清水芳洲著
 權大教正

◆求術者に對する注意

自序じじよに記しるした如ごとく、本書ほんしょは催眠法さいみんぽうの解説かいせつにあらずして、術其じゆつそのものを通つう俗ぞく的に釋しゃく述じゆつし、之これを讀や了くれうすれば誰人たれびとでも想おもふ人ひとに思おもふ儘ままに施し術じゆつし得うるやうに説ざいたものである。乍しかしながらかくしや併あ讀よ者の智識ちしきの程度ていどや、天性せうせい稟質りんしつの相さう

違等に由つて、術を會得するに多少の緩速難易がある如く、術者たる場合の自己の氣分と、被術者たる他者の其の時の態度に依つて、施術の應用に幾分かの優劣が現はるゝ事は、讀者の豫め覺悟して置ねばならぬ處である。單り催眠術のみに限らず、總ての術は、之れを行ふ術者の氣分と密接なる關係を有すると共に、術の相對者たるものゝ、其の機の態度にも亦た大なる關係を持つものである。解し易き一例を示せば如何なる武術の達者も、時に遙かに自己の技倆より以下の對者の爲めに敗を招く事があり、勝負は時の運てふ言葉を以て諦めて居るが如きものである。是れ明かに術者の氣分と術の効果との關係を示すものである、殊に催眠

術は、他術と異り徹頭徹尾、靈妙なる心理作用の上に立つものなるが故に術者の心裡に針端の間隙をも許さない、自然に實在する莫測微妙なる一の勢力の法則を究めて、之れを生物主として人類に利用する心靈の交通を催眠術と稱するものであると知らば、術者は飽くまで眞劍であらねばならぬ、道家の所謂、精根固くして完きを得るものが催眠術であらう故に術者の總ての根底には微塵の不眞面目を許さぬ、斯界の泰斗福來友吉博士等が當時の術者に誠實の士の尠なきを深慨されて居るのも蓋し茲に所以するものだらうと察する、本書を繙かんとする士も、一讀一誦須からく誠意であつて欲しい、然らざれば百遍の讀破も意義の解得も實際

の應用に當つて、竟に徒爾に終るなきやを虞るゝが爲めである。

◆催眠術に罹らぬ人ありや

世には催眠術などには罹らぬと威張つて居る人がある、術者其のものまでが、人に依つて罹るものと、罹らざるものとあるから、催眠術は對者に依つて絶對的なものでない等と公言して憚らぬ者すら見受ける、或る術者の如きは、其の罹る者を隨意身と呼び、罹らざる者を不隨意身と稱し、施術に先ちて被術者の兩腕を力無く垂下せしめ、靜かに持ち上げて之れを放ち、其の持ち上げた腕の元位置に復する者は隨意身なれば

術を施すも可なるも、持ち上げた腕に何んもなく力満ち、之れを放つても元位置に復下し難きは、不隨意身なれば施術す可からずと檢身法まで添へて、教へて居るものもある。斯くの如きは、進歩せる今日の斯道から考ふれば、其の術者の低級に呆るゝのみで、殆んど論議すべき價値を有さぬ、斯流の術者に欺かれ、斯式の術書に謬まられた者は、第一此の謬想誤見から脱せねばならぬ、予は『催眠術は誰人にも施し得る』事を學理の上からも、經驗の上からも確信する者である。○『人として催眠術に感應せざるなし』と謂ふシジス博士の言を現代の催眠術に實證する一人である、求術者に對する注意の項に於て説述した如く、術者の氣分ど

被術者の精神状態に因つて、施術上に大なる關係を及ぼす可き事は免れないとしても、之れを以て直ちに催眠術其のものを云々する事は出来ない、眞剣なる態度を以て對者に臨み、而して術の施し難きは術者の技術の拙劣に歸因するものと斷じて差問がない、單り催眠術に限らず、總て心靈上の問題は精神感應上に於て多少の困難は免かれない、例へば大聖釋尊の如き衆生濟度に當りて、縁無き衆生は度し難しと説き、孔聖も女子と小人は養ひ難しと謂はれて居るが如きものである、却かし何れも絶對不可能の意にあらで、度し難し養ひ難しと困難の言葉である事を知らねばならぬ、我が國隨神の大道に於ても、和魂に對して荒魂を説き

爲進的濟度の方法を示して居る、宗教上に現はれたる是等の事蹟は能く之れを催眠施術の上に參照して考へて見れば、其處に無限の教訓を發見するであらう。或る一人に對して爲し得らるゝ事は他の萬人に對しても漸し得らるゝ事を信じて貰ひたい。

◆催眠術とは甚麼なものか

學理上から解釋すると却々難かしい問題であるが、本書は自序に斷つてある通り、成る可く煩を避け遠を捨て、近きに就き簡明を主眼としたものであるから、茲には至極解り易く説明して置く、催眠術の概念と

でも見れば可なりであらう。

元來催眠術は、人間固有の自發的能力を抑制乃至禁止せしめて、無念無想の状態に誘導し、術者の精神を其の言動に依つて交通せしむるものである、茲に謂ふ無念無想といふのは禪家の夫れとは被術者其のものの状態に於て相等しいとするも、一は自動的であり一は他動的なる相違がある、自動的なるものは終始、自發的能力を失はないが、催眠術の如く他動的に出づる無念無想は、自發的能力を失ふと共に、固有の感受性のみ倍々鋭敏に活動して、言動によりて與ふる術者の精神が其の大小を論ぜず強弱を問はず、取捨撰擇を加ふる事なしに其の儘感應交通する

ものである、故に催眠術を施されたる被術者は術者に對して、絶對服従の關係を示すのである、此處が催眠術の最も興味ある術たる所以である、想ふ人を思ふ儘に扱ひ得るのみ之れが爲めである、幾多の應用もこれに因つて生まるゝものである、親子の關係、夫婦の關係、主従の關係等の如く、他測す可からざる或る微妙なる服従關係を、吾人の日常生活の上を示しつゝあるのは、習慣、遺傳性、時日等に依つて、相互の心理上に、催眠術に於ける術者と被術者の如き關係を量の大小強弱こそあれ、夫々保持して居るものである。

◆催眠状態と睡眠状態の區別

催眠術を研究して居る者ですら、往々催眠状態と睡眠状態とを混同して居る者がある、況んや斯術の智識の皆無なる者が、施術を受けて立派に催眠状態に陥つて居りながら、覺醒後『俺は睡ひらなかつた、何んでも判かつて居たから、催眠術に罹つたのでない』等と謂ふ者のあるのは無理のない事である、一應兩者の區別を心得て置かぬと、術者として不便利を感じずる事が尠なくないから左に略説して置く。

催眠術といふ名稱も、今日の如く進歩した斯術の上から考へ、嚴正な

る心理學上の見地から觀察すれば、感心した名稱ではないやうである、却かし此の論議は暫く措いて、兩者の大なる相違は、催眠状態は術者の精神が、言葉に依つて表示されたる『眠れ』といふ命令を受けた被術者の精神が、自發的能力を制止して、唯だ術者の與ふる命令を待つのみのものである、催眠状態は同じく自發的能力を失ふ事に於て一致するけれども、他の與ふる命令に依つて其の能力が活動するものではない、催眠状態は換言すれば、五官の機能と意識の働きとが、全然他動的に化し去る状態を指すのである、睡眠状態は五官も意識も、自動的に休止する間をいふのである、一は活動力の制止で、一は其の休止で

ある、喩へば催眠状態は電流を通して置きながら、開閉器を閉ぢてある電球の如きものである、一度開閉器さへ切れば、電球は何時でも明煌々たる光を放射するのである、之れに反して睡眠状態は、電流を通はせざる電球の如きもので、如何に開閉器のみを開閉しても、光無き電球は依然として光を放つ事のないのと同じである、催眠状態に在りては、電流が即ち術者の精神であつて、開閉器が其の命令であり暗示である事を了解して貰ひたい。

◆催眠術を施す順序

術は術者の随意に行ふが原則である、決して斯くして斯くせよといふが如く、其の方式順序等を規則的に他より定むべきものではない、若し厳定せられたる順序方式があつて、術を行ふ事を羈束するものとするれば、術者は臨機應變の妙に出づる事が出来ず、恰も法の如きものとなつて、其の時の宜しきに従ふ事が出来なくなる、故に武術者が對者の態度に依つて自己の態度を決するが如く、催眠術者も亦た、被術者の態度に依つて施術の形式を定む可きである、併しながら多くの經驗上から考へても實際問題の上から觀察しても、催眠術に於ける被術者は、或る一部の特殊な者を除く外は、大概術を信じ術者を信仰する感念を、心裡の何所か

に潜在させて居るものであるから、之れを施す者は、他の術者の如き困難と支障とは被むらぬのが通例である、茲に於て經驗上から作り出された施術の方法順序があるのである、無論絶対不可能の順序方法ではない、其の證據には、同じく催眠術と稱するものでも、凝視、壓迫、摩擦、氣合等の方法を異にするものが實在するを見ても解かるであらう。其何れなるにもせよ、術者は先づ被術者に對して、豫期作用を心裡に起さしめ、然る後に被術者に向つて、或る動作を施し、而して暗示を言語に依つて與ふるのが順序となつて居る、嚴正なる意味から謂へば、豫期作用を起さしむるのも、動作を施すのも、總て是れ暗示ならざるはない。

のである、暗示は實に催眠術の基礎を成すものであるが、此の暗示を言語動作の二様に現はすのが術であり、二様に表現されたる暗示を與ふるのが施術の方法順序である事を、能く會得せねばならぬ。

◆暗示とは如何なるものか

催眠術上に謂ふ暗示なる詞は、英語のヒントの意味とも異り、サツセツションの譯語としても不充分である、廣義に解釋すれば、吾人の五蘊入識に傳はる所、都て暗示ならざるはない、乍併催眠術に謂ふ所の暗示とは斯くの如き廣義の意に依らず、術者の意思を被術者に通ずる命

令を指すのである、動作に依りて與ふる場合もあり、言語に依りて與ふる時もある、要するに兩者共に、自發的活動力の靜止中にある被術者に對して、術者の意思の儘に、其の發動を爲さしむるものであるから、最も細心の注意を必要とする、暗示は催眠術の基礎であり生命である、之れを與ふる事の巧拙は直ちに、施術の巧拙となるのであるから特に項を設けて、其の最も有効有利なる方法を示さう。

◆暗示は斯くの如く與へよ

(第一) 被術者が催眠状態に入る時は、五官の働さが極めて鋭敏にな

つて來るものであるから、言語を以て與ふる暗示は、極めて低聲に、而かも徹底するやうにせねばならぬ俗に謂ふ底力のある聲を必要とする。

(第二) 單り言葉のみでなく、文章も左様であるが、徒らに冗長なるは却つて、不得要領に陥る虞があるものであるが、暗示の口調は莊重に且つ簡明なるを要する、而して秩序が立つて居なければならぬ、然ればとて無暗に難かしい漢語等を用ゆる必要もないが、野卑な言語は絶對に避く可きである、被術者の教育程度や、職業年齢等に依つて、臨機應變の態度に出でねばならぬ、却かも飽くまで、命令的な調子と宣言的口調を失なつてはならぬ。

(第三) 暗示の徹底を期する上から、同じ事を幾度も繰り返して暗示を興へる事が必要である、併し茲に注意を要するのは、暗示の反復といふのは、同じ言葉の反復ではなく同じ意味の反復である事を知つて貰ひたい、何故となるに、例へば『君の頭痛はモウ癒つた』といふ暗示の場合に、『君の頭痛は癒つた、君の頭痛は癒つた』と同じ言葉を繰り返すと寧ろ滑稽に聞えて暗示の必須條件たる壯重の點を失ふが故である、同じ意味で言葉を變へ『君の頭痛は全く治つた、君の痛みはモウ治つて仕舞つた、モウ決して痛まない』といふ風に繰り返すのである。

(第四) 暗示の言葉は現在的であつて斷定的でなければならぬ、豫想

の意味の言葉や、將來を示す意味の言葉は斷じて用ひてはならぬ『君の頭痛は漸々癒つて来る』とか『君の頭痛は癒つて来るだらう』等といふたら、其の暗示の効力は零である、然ればといふて最も注意を要するは一二回の施術では到底駄目な事は、常識でも判斷の出来る事に對して斷定的に興へるのも避けねばならぬ。

(第五) 暗示を興へて居る間の術者は、唯だ言葉の上だけに意を用ひても不可ぬ、誠心誠意满腔の熱誠を言語動作總ての點に注がねばならぬ術者の精神に間隙があつては、被術者に其の暗示が感應するものではない、術者は邪念を去り妄想を去つて一意専念、被術者を完全に催眠状態

に陥らしめなければ止まぬ底の覺悟が無ければならぬ、而して兩者の信念の合致を期さねばならぬ、殊に施術の際の如きは一寸でも、施術以外の事に術者の氣を奪はれるやうな事があつては、與へたる暗示は無効に歸する、例へば『君は眠くなつた』と暗示の言葉を與へながら、同座の人の姿等に心を注ぐやうでは全然暗示の効を奏さない、斯くの如き散念移心の虞を除去する爲めに、施術の場合は、極く閑靜な場所を選ぶ必要が生ずるものである、却かし熟練さへすれば如何なる場所でも差支ない事はいふまでもない。

◆催眠術の生命たる豫期作用

催眠術は豫期作用によりて施さるゝものと謂ふても差支ない、豫期作用も廣い意味から論ずれば暗示の一部分である、術者が被術者の心理に働く豫期作用を利用する事に依りて、催眠術は施さるゝもので、之れを利用する事の巧拙は直ちに術者の巧拙となるのである、豫期作用を起さしむる事に巧みな術者は、譯も無く施術の効果を收める事が出来る、此の大切な豫期作用とは、被術者が術者を信仰する觀念を稱するもので、之れを惹起せしむる方法は、術者に依つて多趣多様である可きは無論で

ある、或は術者に會せざる以前に其の風聞を耳にして信仰心を生ずる者もあらう、或は術者に接し未だ其の施術を受けざる以前に於て、術者の容貌態度言語等を見聞したばかりで、既に七分の信仰心を惹起する者もあらうし、或は全然信仰心を持たなかつた者が、催眠施術の實驗に接して遽かに信仰心を生ずる者もあらう、要するに術者たる者は、多く廣く強く自己を信仰せしむる事が肝心である、催眠術は子が親に施し難いとか、妻が夫に施されないとか、婢僕が主人に羅け苦いとか謂ふが如き嘆聲を聞くのも、畢竟此の信仰心を惹起せしむる事が、比較的困難なるに基くものである、反對に主が従に、長上が眼下の者に施し易いといふの

も、此の逆理に外ならない、然らば全然術者に對して信仰心を持たない者に對しては、催眠術は無價値のものに歸して了はねばならぬ理屈になるが之れは大なる誤解である、別項催眠術の秘訣に於て詳述する通り如何に信仰心が無い者に對しても、術者が熟練せる技能を以て或る方法を施せば、被術者の心理に虚を生ずるに乗じて、悠忽の間に豫期作用を起さしめて効を奏するのである、豫期作用の働く期間は長短を論じない働ささへすれば瞬間でも可いのである、但し瘋癲、白痴者の如きに對しては、信仰心も不信仰心も差別が附けられないから、施術は不可能な場合が多い、意識の不明瞭なる者に對して、術者の明瞭なる意識を感應せ

しめやうとするのは、濁水に清水を注ぐ如うなものである事を知らねば如何なる部類の人間のみが、催眠施術不可能であるかと、察知せらるゝであらう。

◆斯様いふ方法で施術せよ

暗示の如何なるものなるかを知り、豫期作用の大切なる事を會得すれば、それで催眠術は、誰でも想ふ人に思ふ儘に施し得る道理である、然かし實際に當つて施術する場合には、暗示を効果あらしめ、豫期作用を巧みに利用する爲めに、夫々方法形式のあるものである、凝視催眠法、

壓迫催眠法、摩擦催眠法、氣合催眠法等と流派の分たれるのも、畢竟此の方法形式の相違に因るものである。予が茲に解説するのは、是等の陳套なる方法と全く異り多年の經驗に於て一の失敗なく、極めて簡單にして實効の確實なる清水式の方法である。先づ被術者を椅子に凭らしむるとも、跪座せしむるとも、亦た正座せしむるとも適宜であるが、成る可く被術者をして窮屈な想ひをさせないやうな位置を擇んで定在せしむるそれから其の左右の手は掌を上方に向けて軽く膝の上に置かしめる、術者は被術者の身體に觸れない様に注意して、其の右側に對座し、左足を被術者の後方に立て左手を其の上に乗せ、右の膝頭を被術者の膝頭と

並行せしめ、右の足指を疊に着け踵を立て、臀部に當て上體の姿勢を正すのである。此容は卷頭第一圖を参照すれば解る、此處までは術者の姿勢と被術者の姿勢とを定むる方法である、これから施術の實際手段に入るので、卷頭第二圖に示すが如く右手の拇指と食指とに力を籠めて折曲げ、被術者の眼から一寸位の間隔ある正面に持ち出して「何事も考へないで熱心に此の二本の指端を見つめよ」と命ずる、被術者が之れを凝視するや術者は其の指を四十五度位の角度を以て徐々と上方一尺五寸乃至二尺位の處まで遠ざけ、被術者の目と心とを奪ひ取つて置きながら、一旦遠ざけた右手の指を被術者の兩眼黒腫に向つて急速に逆行するのであ

る術者は此の時こそ精一杯丹田の力を絞つて、「エイッ」と一喝加へるのである。茲に最も注意を要する事は、右手の逆行運動と一喝とが、秋毫の間隙も無く呼吸が合致せねばならぬ、故に術者は滿腔の精力を傾注して電光一閃の速業を要するのである。此の電擊的運動が終ると同時に、「モウ其の眼は絶対に開かない」と斷言的暗示を與へ、間を置かずに「ソラ其の通り眠くなつて來た」ソラ其の通り催眠に掛つて來た「モウ君は如何に起きて居やうとしても起きて居ることは出來ぬ」ソラ其の通り非常に眠くなつて何んとも言へぬ好い心持になつた「サア君は催眠術に掛つた」モウどうすることも出來ぬ」と斯く二三遍繰り返へして居る間

には被術者の心理には充分催眠心理作用が働いて来る、そこで最後の斷定的暗示たる『サア君は、催眠術に深く掛つて、非常に眠いから、人の話や物の音などに頓着せず私が起すまで安心して眠れ』と命令を與へるこれで催眠術は立派に罷るのである。方法といふのは斯くの如き次第であるが、無論其の與へる命令の言葉は、此の意味さへ失はなければ術者の隨意である、鳥渡念の爲めに言ひ添へて置く事は、若し被術者が椅子に居た場合には前記の如き姿勢を術者が取る譯に行かぬから、其の時は對立して手段だけを間違はないやうにするが可い。

次ぎに注意して置くのは、右手の逆行運動を行ふ時、被術者の兩眼の

黒腫に向つて急速に逆行するだけで、決して指を眼に觸れるのではない且つ最初指端を凝視せしむる時は、初心の術者は稍々暫時の間、凝視させて置けば可い、これは被術者の精神を一箇所に集注させて、之れを奪はんが爲めの豫備行爲であるから、術者の指端が左右上下に動くやうでは駄目である。

◆ 一般的施術の解説

一人に爲し得る事は他の萬人に爲し得ない道理はないとは、進歩せる催眠術者の等しく認容する所であるが、實際に當つて見るも却々左様は

行かないといふ人がある。これは未だ眞に斯道の妙諦に入つたものではない、催眠術の生命ともいふべき術者と被術者との間の信仰關係をさへ、會得すれば百人を百人悉く催眠せしむる事が出来る、例へば多數居合はせて居る席に於て、其の一人に向つて『君の足は立たなくなつた』と暗示を與へ、果して其の通り立つ事が出来なくなつた、其状態を目撃して居た他の一人に向つて『君の手は上に上がらなくなつた』と暗示すれば必らず其の通りになるものである。これは別項に述べた豫期作用の効果である事を知らば、此の理を推して多人數に及ぼす事は決して難事でない事が解かるであらう。

▲二例▼ 多人數を同時に催眠せしむるには、個々別々の心理作用を同時に支配し得れば可なる道理であるから、先づ其の中の二三人に對して催眠術を施して見せる、左様すると他の懷疑者も必ず疑心が去つて術者に對する信仰心が湧發する、此の時一同に向つて『サアかけるぞ』と宣言し一同の視線を術者の身邊に集注させる、術者は飽くまで沈着に構へて容易に手を下さすに居る。左様すると被術者一同の心中には稍々倦飽の念が生じ初むるものである。斯くと見て取つた時、凜乎たる聲を以て『眼を瞑れ』と命令する、虚を衝かれた被術者等は命令の儘に閉目するに至るものである、此處まで達すれば既に術中に陥つたもので、其の後の

暗示は一人に施す場合と相違はない。

▲二例▼ 反抗者に施す場合は先づ第一に反抗する事の無價値であるといふ觀念を持たしむる事が大切である。反抗者の種類を擧ぐれば自分の意志の強固なるを信じて催眠術に罹らずと獨斷して居る者、過去に於て實驗したが感應した事がないから罹らぬと思ふて居る者、或は催眠術の如何なるものかを知らずに之を否認する者等である。要するに術者乃至術其のものに對して信仰心の無い者である、是等の者に對する時は自分の行ふ催眠術は君等の想像する如うなものとは全く異つて、誰人でも瞬間に眠らせ得る清水式の術である』といふ意味を、其の人其の場合に

依つて巧みに語り聞かせる、左様すると反抗者の心中には、或は左様な位の疑惑が起るものである。疑惑は全くの反抗ではない、信仰に誘導し得る間隙を生じたものである、術者は續いて『自分の行ふ反抗者催眠術は普通の催眠法と異つて、被術者が反抗すればする程速く罹るものである、心理作用の興味は此處にある』と語り續ける、其場合には言語も壯重に發す可きは勿論であるが態度が大切である。威嚴を示し確信を表はさなければならぬ、左様すると人間は妙なもので頑強な反抗者も半信半疑の状態に到るものである。これは日常生活の上にも時折經驗する心理現象である、今度は斷々乎として『サア反抗するならせよ、反抗

すればする程速く催眠に罹るぞ」と宣言する、左様なれば反抗者は何時の間にか明かに反抗心理から遠ざかつて、心機の變轉を來たす、此の機を逸せず催眠暗示を與へて誘導するのである。

▲三例▼ 催眠術に罹る事を欲しない者に施術するのを、強制催眠と呼んで居るが、これは反抗催眠と殆んど同種のもので方法も亦た大差がない、日本では明治四十一年九月發布の警察犯處罰令第二條第十九號に依つて「濫りに催眠術を行ふものは三十日以下の拘留又は二十圓以下の罰金に處す」といふ取締があるから強制催眠は日本に於ては無用のものであるかの如く解釋さるゝが、例へば子供の惡癖等を矯正する爲めに、子

供が施術を嫌がつても、其の親が施術を望むやうな場合がある、これは常識で判斷しても濫りにといふ意義に抵觸しないと解釋するのが當然である、故に心得て置く事は決して徒爾ではない、斯くの如き場合は、術者は飽くまで嚴格なる態度を示して最初は「催眠術をかけてやるぞ」と謂ふて被術者の心理を惑亂させて置いて「一度だけかけてやらう」と更に惑亂の度を進ませ「そんなに嫌がつてもモウ駄目だ、お前は催眠術に罹つて了つた、ソラ逃げれば逃げる程罹るぞ」と威嚇し「三步前に出て見ろ足が附着いて動けなくなる」といふが如く、極端な豫期作用を働かせれば可いのである、例を以て示せば擊劍等の試合の際に、敵が受太刀

になつて来た時に此方か倍々勢ひ込んで、打ち懸つて行くと案外に、敵より實際の技倆が劣つて居ても勝を制する場合が多いやうなものである。受太刀は即ち對者に向つての攻撃忌避である、其の機に乗じて猛烈に打ち込まれるから技術を用ゆる猶豫が無くなつて、竟い敗れるのである、反抗催眠も強制催眠も共に、對者の虚を衝く事が必要である。

▲四例▼ 自己催眠法といふのがあるが、之れは自己が術者となり被術者となつて、自ら暗示を與へ自ら眠むるのである、此の方法は一回も催眠術に罹つた事のない者には行ひ難いもので、甚なくとも數回他の術者に催眠術を施して貰ひ、而かも強睡状態に入つた經驗を持つ必要がある。

如何となれば此の自己催眠は、自分が曾て他の術者の爲めに眠らせられた時の、状態を回想して自己を誘導して行くのである、即ち術者が自分の側に居る、術者の指が自分の眼前に運ばれた、術者の一喝が響いた自分分は眼を閉ぢた、術者の暗示が聞ゆる、といふ風に假想して雑念を去り無念無想の境に入つて眠りに落ちて了ふのである、これは人間の追想に依る心理作用に基くもので、例へば過去に於ける悲惨事を追想して『思ひ出しても慄然とする』とか或は嬉しかつた事を追想して獨り微笑を浮べたり、又は耻かしかつた事を追想して『今思ひ出しても冷汗が流れる』とかいふやうな事を屢々見聞し又は經驗するが、其の時は過去の其の事

件に逢會した場合と同じ心理状態になるのである、自己催眠も亦た此の心理作用を催眠術に應用したものである、自己催眠が巧みになると、隨處隨時に施して心身を休養する事が出来る、而も他の靜座法とか強健術とかいふが如きものと異つて、極めて短時間に心身の休養を致す事が容易であるから、活社會に活動する人には無上の身心休養術といふべきである且つ自己に催眠し得て而して之れを他に及ぼすのは、自己の信念を確立する上から見ても、是非斯術研究者の學ぶ可き方法だらうと信ずる。

◆術者の心得べき條々

▲其の一▼ 此の項に述べる所のものは、催眠術者として是非心得て置かねばならぬ注意要項である、別項に再三詳述した通り、被術者が術者の技倆の長じて居る事を信仰し、且つ術者の言行には些の詐りも無い事を信ぜしむれば豫期作用が完全に行はれて、催眠術が美事に成功するものであるが、豫期作用を生ぜしむる信仰は、術者の自信より發するものである、換言すれば、術者の『自分が自分の技術を信ずる』自信ある態度及び自信ある言語に依つて被術者に信仰の念が起るのである、故に術者は徹頭徹尾自信より遠ざかつてはならぬ、例へば『子供は二三人眠らせたが、未だ大人には一人も施術した事が無いから怪しいが、多分罹る

だろ』といふやうな事では、到底罹るものではない。此の注意要項は施術の秘訣とも稱すべきである。

▲其二▼ 次ぎは催眠状態の検査法である、被術者が果して催眠術に罹つて居るか如何かを検査しないと、思はざる失敗を演ずる事がある、之れを検すには種々なる方法もあるが、先づ外見上から言へば、顔面表情や總ての容子が何處となく覺醒時と異つて來ると共に、呼吸が著しく違つて來る、普通睡眠の時と同じ如くに、吸ふ息が長くなつて吐く息が短くなるものである、尙ほ正確を求むるには、暗示に依つて検査のが可い例へば『君は催眠術に罹つて深く眠つて居るから、君の手は何をされて

も痛くない』と暗示して抓るなり叩くなりして見る、而して痛さを感じない時は、立派に催眠術に罹つて居るものである。

▲其三▼ 術者として被術者に對する義務ともいふべき事は、正確なる覺醒を興ふる事である、午睡の時などに急に呼び起されると、眩暈がしたり、頭痛を覺へたりする事があるやうに、深い催眠状態にある者を突然覺醒させると、往々身體に異和を來す虞がある、故に術者は覺醒に當つては、決して輕卒の事をしてはならぬ、先づ覺醒させる前に必らず『君は眼が醒めてから、頭も身體も軽くなつて非常に氣分が好く胸も清爽となる』とか或は單に『君は眼が醒めて後は、何んとも譬へやうのな

い好い心持になる』とか又は『君は非常に頭腦の工合も好くなり、身體も強壯になつた』とかいふ暗示を與へなければならぬ、それから覺醒の暗示として『サア眼を醒しなさい』と言へば可いのである、更に念入にすれば『私が一、二、三と數を勘定して十と言へば君は眼を覺ます』と暗示して置いて、其の通り一、二、三と算へて十に至ると、被術者は靜かに覺醒するものである。

▲其の四▼ 催眠状態に導き得る能力を有し、又た催眠状態に入らしめられた程の被術者との間に、斯くの如き事は道理上無い筈のものであるが往々不熟練なる初心者等の間には、被術者が如何しても催眠状態から

覺醒しない爲めに、非常な騒ぎを惹起する事がある、これは決して徒らに周章狼狽すべきものではない、假從んば斯くの如き事があつたにせよそれは時間の問題で解決される事である、如何しても術者たる自己の能力では覺醒が覺束ないとした時は、狼狽せず催眠状態の儘で、暫時放置すれば、或る時間を経過すると必ず自然に覺醒するものである、此の時間に就ては、或は八時間を要すとも云ひ、或は十二時間も稱するものがあるけれども、これは根底ある説ではない、時間は未確定に屬して居るが、多くの場合二三時間位で自然覺醒を行ふやうである。

▲其の五▼ 覺醒後に於て被術者をして、何事かを爲さしめやうとする

時は、〇〇〇〇。残續暗示を興へる、残續暗示とは催眠状態中に興へた暗示が、覺醒後まで働く事を謂ふので例へば「君は眼か醒めると小便所に行きたくなる」と暗示を興ふれば、覺醒後被術者は必ず尿氣を催して小便所に行く又「君は來週の日曜日には何の用が無くとも必ず私の家に来る」と暗示すれば必ず其の通り實現される、これは被術者常人に於ては、催眠中に興へられた暗示の事や、暗示に感應した動作の事などは少しも記憶して居らないのに、唯だ興へられたる暗示通りに意識が働いて之れを實行するものである、斯くある以上は、暗示は獨り催眠中に於てのみ結果を生ずるものではなく、覺醒後に至つても亦た暗示の結果を呈する

事が解るであらう。これは催眠術以外吾人の日常生活の上にも同様なる心理作用を實驗する事がある、例へば久しい過去に於て、罪惡か或は過失を行つて非常に叱責され又は訓戒されたりした事のある者が、同じ罪惡を犯さんとし、又は同じ過失を再びせんとする際に當つて、そゝろに過去の叱責訓戒等を受けた時の心理状態と同じ心理状態になつて、罪惡過失を避ける事がある、罪惡過失に對する懺悔改悛の殘續心理と謂ふべきものである、教育の効果、殊に德育の効果等は此の殘續暗示の効果と同様なものであると信ずる、更に此の殘續暗示を活用すれば、疾病治療惡癖矯正等の實果を收める事は決して難事ではない。

◆催眠術の應用類例

以上各項に詳述した所を以て、催眠術とは如何なるものであるか、催眠術は如何にして施すべきものであるか、解知されたであらう。然らば次ぎには之れを實際に應用することを考へねばならぬ、如何に明確に催眠術なるものを會得したとしても、之れが活用を講じなかつたならば、所謂寶の持ち腐れである、單り催眠術のみならず、總ての術は之れを應用する事に依つて、始めて價値の生ずるものである、例へば如何に武術の蘊奥に達して居つても、身を守り敵を倒す實際活用に資さなかつたな

らば知らざるも同然である、殊に催眠術の如きは、之れを他者に施す事のみを以て満足して居るなれば、それは一種の娛樂であり道樂である、娛樂や道樂には弊害が伴つて生ずる、法規の示す『濫り』に陥る虞れがある、予は常に深慨して居る事は、我が國に於ては未だ充分に催眠術の應用が行はれて居ない事である、近時學術界に於てこそ、眞面目なる研究が行はれて來たか、普通世上の術者又は斯道研究者等の態度を觀察するに、多くは一種の娛樂視するに過ぎないものか、或は其の進歩發達に資すべく、研究に努めずに、只管之れを私利私慾の爲めにのみ用ゐて居る故に他の科學と比較するに、心靈上の研究は至つて不振の狀態にある事

を否定する譯には行かぬ、眞面目なる研究家が現はれて、最も熱心に研究の歩を進めたならば、如何に偉大なる効果を社會に示すか付度すべからざるものがあらうと信ずる、現に應用されて居るものゝみを擧げても決して尠なくはない、即ち

(イ) 疾病治療悪癖矯正に應用されて、偉効を奏して居る、之れは前述の殘續暗示の活用であるが、諸種の應用中に於て、最も多く用ひられ而して最も大なる効果を收めて居る、心理作用に依りて疾病を治する事は、茲に贅するまでもなく、心理學の大家エルマア、ゲーツ博士の如きは、人間の精神力が常に肉體に組織的變化を與ふるのみでなく或る場合特種の

化學的物質を生ずる事を實證して居る事から推論しても不思議はない、我が國の刀圭界の權威たる佐藤進、二木謙三兩醫學博士は實驗上から之れを立證して居る、疾病すら治療し得るとすれば、性癖の矯正等は易々たるものなる事は誰人も推定するに難くはあるまい、現時醫術界に推奨されて居る應用としては、外科的手術の際に於ける無痛暗示の應用である。

(ロ) 教育上に應用されては、子弟の品性を陶冶し、記憶力を増進し、學科の好惡を矯正する等である、前例と同じく主として殘續暗示の活用である。

(ハ)健康増進身心休養に應用されて居るのは自己催眠である、簡單に而かも短時間に且つ場所を擇ばずに實行し得る利便があるから、官公吏銀行員等繁劇なる職務に在る者は盛んに之れを應用すれば可い。
(ニ)宗教上に應用されたのは、殆んど人類の創始時代からといふても可い勿論催眠術と稱して應用されたものではない、或は靈術と稱し妙法と唱へ、時に魔術と呼ばれ仙術と號された、基督や釋迦といふやうな聖者の行つた奇蹟と唱へられて居る事は、今日から稽へると催眠術の應用であつた事を立證し得る、本邦宗教史上の偉人名智識日蓮や空海等の行つた不思議と目されて居る偉績も、亦た斯術の應用であつた、神通力或は神

人感應術等と謂ふのも是れである、近代の宗教家が之れを應用して教化の實に供する事に努めないのは甚だ遺憾な事と思ふ、却かし今日と雖も往々之れが應用者を見るが成績は極めて良好であるのを認める、最近物故した大道主唱者たる川合清丸師の如きが其の一人者である。
(ホ)投機上に應用されて居る事は、非常なもので、其の効果も甚だ絶大なものがあるらしい、或は『相場鑑定』『期米高低觀測』等の名稱を附し、或は全然名稱を更へて『致富術』等と唱へて盛んに斯術を投機上に利用して居る、これは自己催眠に依つて、將來の事象を豫知するに出づるもので、俗間に見る『巫子下し』『稻荷下げ』等と稱する術に依つて人間の運命

をトし、過去現在未來に亘る事象を判断するのも、自己催眠の一種である、これと同じ心理作用を投機上に應用するものであるからの中するは敢て怪とするに足らぬ譯である、天候すら豫知し得る事を實例上から斷言し得るから面白い。

(へ) 司法警察上に應用して、偉効を收めて居る事は幾多の事實が立證して居る、例へば犯罪隠蔽の發覺、自白の強要、贓品埋没の透視、證據の蒐集等に應用されて成功して居る、彼の千里眼或は天眼通、透視術等と稱するのは何れも催眠作用の應用で、之れを推用すれば、司法警察上に偉効を奏するが如き事は易々たる道理と言はねばならぬ。

以上の諸例の外に、是れを家庭上に應用して一家の不和を調べ、交友間に應用して相互の誤解等を去り、或は男女の戀愛關係に應用して之れが満足を求め、或は商業外交上に應用して正確有効なる懸引に便し、政治上に利用して人心を收攬し、事業上に活用すれば、海底に潜在する寶庫の發見に資し、地中に伏在する礦脈を透視する等、應用の範圍實に無限といふべきである。

◆卷尾に附言して

讀者の參考に資する事は、卷頭自序に於て述べた通り、本書は主とし

て催眠術とは如何なるものなるかを説き、催眠術は斯くの如く施せと教へたものであるから、決して催眠法全般の解説書とは稱されない、故に讀者にして若し、更に深遠廣汎なる斯道の智識を得んとするならば、世上凡百の不正確なる術書に謬られざらんが爲めに、本會發行の『清水式瞬間催眠法』を購讀せられん事を勧める、然らば本書に依つて求め得たる智識と相俟つて、始めて完きを得可きを茲に保證して置く。

清水式催眠術速解(終)

清水式催眠術速解

定價金六拾五錢

大正七年一月廿五日印刷
 大正七年二月三十日發行
 大正七年二月廿五日發行
 大正七年三月三十日發行

著者兼
 發行者

東京市本郷區元町二丁目八番地

清水 芳洲

印刷者

東京市京橋區高代町九番地

渥美 義男

印刷所

東京市深川區千田町百七十番地

東京心理協會印刷部



不許
 複製

發行所

東京市本郷區元町二丁目八番地

東京心理協會本部

振替口座東京三三三二二〇番

海軍中將男爵 肝付兼行閣下題 前内務省警保局長法學博士 古賀廉造先生序
文學博士 福來友吉先生序 文學士 上野陽一先生序
東京心理協會會長 權大教正 清水芳洲先生著

増補五版

清水式瞬間催眠法

洋裝美本全壹冊
數紙二百餘頁
實驗寫真廿餘頁
送料共金參圓

■催眠術の理論は固より深邃幽玄なりと雖も之を究極するに各派各式
悉く普遍にして共通なり。唯其の應用の微妙勁烈なるに至つては、
實に術士其人の特異卓拔なる精神力に在りて存す。
■方今心理學界の明星泰斗を以て目せらるゝ福來博士は喝破して曰く

「世に催眠術の術士多しと雖も熟練と誠實とを兼ね備へたる斯道眞
正の術士は唯清水君に於て初めて之を見る」と。以つて清水芳洲先
生の特異なる人格と卓拔なる技倆とを想見するに足るべし。
■故に之を要するに、驚く可き催眠術の効果は、只人格と人格との接
觸、親和、結合、燃燒、融解、靈化に依つてのみ實現せらる。苟く
も神秘靈能なる催眠術(殊に瞬間催眠法)の偉効を收めて、難病、癩
疾、惡癖、煩悶を治し、其他無數なる變通自在の應用に徹底せんと
欲するの士は速かに來つて我が清水先生の大著に就くべきなり。

東京市本郷區元町二丁目八番地

發行所 東京心理協會

振替東京三三三二二〇番

文學博士福來友吉生先著

增補
五版
新刷

增補
心靈の現象

中判上製極美
紙數四六〇頁
價金壹圓四拾錢
送料金八錢

心靈界の權威

○著者が實驗研究現象寫真拾六葉挿入す實に學界唯一の珍寶也○
心靈界の泰斗福來博士が多年苦心研鑽して成れる本書は神通忍靈活療
潛在精神武士道等の如き凡て心靈的活動神秘的現象に屬する者は悉く
叙して細大洩さず且行文平易何人にも其深濶の理を容易に會得せしむ
殊に第五版には當代無比の大神通力者三田氏の念寫に關する最近公開

實驗の結果を増補す讀者は之に依り學界破天荒の念寫研究が如何に進
歩し如何に世人より認められつゝあるかを知り得べし。

■**心靈の現象增補** 第四版前の讀者には第五版に増補分のみ分
賣す(送料共金拾貳錢)

東京市日本橋區檜物町二十六番地

發兌 弘學館書店

振替口座東京二三〇番

東京市本郷元町二丁目八番地

取次 東京心理協會本部

振替東京三三三三二〇番

新時代の要

による 自己催眠講習會

頭を過激に使ふ方々

事務の人
學問の人
活動の人
投機業者
政治家
事業家
商業家

ば自己催眠法の修練を要す、蓋し疲勞せる精力と衰耗せる體力を立處に回復し得るは此法に如くものなければなり。本會は熟練の技術と多年の經驗とを有せる會長清水芳洲が直接指導教練し僅々二日若くは三夜にて其蘊秘を傳へ實地に修熟せしめ應用自在たらしむ之を活用して趣味豊富に自他に施して効益顯著なり今や時代の趨勢は痛切に此種の方法を要求す、本會即ち是に鑑みて此會を開く修習希望者は時機を逸せず入會せよ。(會則申込次第送呈)

東京心理協會本部

278
1000

終